



いつまでも住み慣れた地域で暮らしてつづけるために

最終回 いつまでも住み慣れた地域で暮らしてつづけるために

上野山 裕士

これまで、地域と学生との協働的实践および私自身の実践的研究の事例を通じて、域学連携、地域福祉について検討してきました。「地域の観光資源や特産品をいろんな人に PR したい」（津木地区）、「思い入れのある小学校の校舎を活用して地域を盛り上げたい」（上神野地区）、「認知症になってもいつまでも住み慣れた場所で暮らしてつづけられる環境をつくりたい」（にこカフェ）というように、具体的な目標は異なるものの、本コラムにおいて紹介した取り組みはすべて、「地域をよりよいものにしたい」という住民のみなさんの思いからスタートしたものでした。最後に、これまで紹介してきた事例や、調査研究を通じて感じたいつまでも住み慣れた地域で暮らしてつづけるためのヒントについてお示しをしたいと思います。

まずは、自分らしく生きていくこと。生きがいや趣味を持ち、いつまでも健康でいようと努力することは、よりよい生活の基本となります。

つぎに、周りの人びとと楽しく生きていくこと。ご家族やご友人、ご近所のみなさんと積極的に交流し、笑顔

の絶えない毎日を送ることで、生活の質（QOL: Quality of Life）が高まります。

そして、地域にいる「困りごとを抱えている人」のことを気にかけること。知っている人でも、見知らぬ人でも、想像力を働かせて、同じ地域のなかで困っている人について考えてみてください。

最後に、困りごとを抱えている人や地域のために、なにか行動をはじめること。どんな小さなことであっても、それは大きな一歩になるはずです。

このように列挙してみると、いつまでも住み慣れた地域で暮らしてつづけることは、けっして大仰なことではなく、いまの生活の延長上にあることがよくわかります。5年後、10年後のご自身、ご家族、ご友人、ご近所、そして地域のためにいまできることはなにか、一度ゆっくり考えてみませんか？

短い間でしたが、お付き合いをいただきありがとうございました。またいつか、つぎは地域づくりの現場でお目にかかることができたら幸いに存じます。

くうえのやま・ゆうじ / 和歌山大学 観光学部
特任助手 / 博士（人間科学）>

第 95 回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

災害救助ロボット ～夢の実現に向けて～

話題提供者 徳田 献一（和歌山大学 システム工学部 講師）

日時 2017年 9 月 20 日 水 19:00 ~ 20:30

場所 岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

研究者たちの救助ロボット実現に向けた取り組みを通して、夢の技術実現のための課題を一緒に考えたいと思います。

わだい浪切サロンとは？

毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先：和歌山大学岸和田サテライト 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F
TEL & FAX：072-433-0875

岸和田サテライト 検索